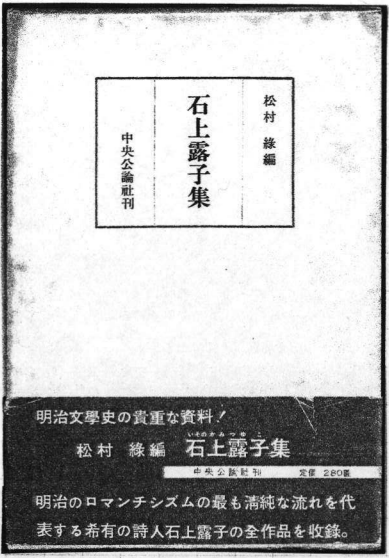


石上露子 いそのりか 歌人。明治十五年（一月十一日）大阪生れ、昭和二十四年十月八日歿（六十二歳）。本名杉山タカ（孝子）。筆名いそはゆきこめ、いそり上りゆ子、いそり上露子、こら露、たか子、りゆ子、ゆきこどり、タウこり、タチどり、タメ女、タキ鳥、夢遊庵、小女りの子、孝子、富田林のタキ鳥、未結草、杉山のゆ子、石の上露子、石上のゆ子、石川のゆきこどり、美代子、野ばら、野薔薇、露子、○○子等。『婦女新聞』投書家を経、明治二十八年新詩社に入り、『明星』、『文芸』の作品発表。その唯一の詩篇「小板橋」は明治詩屈掲の絶唱。

著書『石上露子集』（松村縁編、昭和二十四年十一月）二十五頁中央公論社（等）。



明治文学史の貴重な資料！  
 松村 縁編 石上露子集  
 中央公論社刊 定価 200円  
 明治のロマンチズムの最も清純な流れを代表する希有の詩人石上露子の全作品を収録。